**君主論：マキャベリが考えるリーダーとは？（洋書の要約、レビュー）－ホワイトボードアニメーション動画―**

君主論とは、今から約５００年前に、ニコロ・マキャベリと言うイタリア人の政治思想家によって描かれた政治学の本です。

そして、君主論でマキャベリは、君主（リーダー）とはどうあるべきか？と言う事に関して論じたわけです。

この本の中から、私がピックアップしたアイデア２つとそれに関連する記事を交えて、２つの動画に分けてご紹介したいと思います。

**１．愛されるよりも恐れられる方が良い？**

君主論でマキャベリは、

「リーダーとは愛される事、そして恐れられる事、この両方を兼ね備えているのが一番良い。だが、両方を兼ね備えるのは簡単な事では無いので、どちら一つを兼ね備えるとしたら、恐れられる方が良い。」

とおっしゃっいました。

この発言に関しては賛否両論があるわけですが、最近の調査によりますとリーダーは愛される方が良いと言う調査結果が幾つか出ています。

まず、愛されると言う事と恐れられると言う事を定義しますと、「愛される＝暖かさ、頼りになる。恐れられる＝強迫、能力の高さ」となります。

そして、現代のリーダーの多くは、強迫や能力の高さだけをを仕事場で披露しますが、これは間違ったアプローチです。

何故なら、強迫や能力の高さを披露する事は、部下の中で恐れを芽生えさせ、問題解決能力から創造性など、パフォーマンスを低下させ、コミュニケーションなどを阻害してしまう可能性が高いからです。

ですので、リーダーは暖かさを披露する事から始めるようにするべきで、理由としては、暖かさにより良い人間関係を作る事が可能になりやすくなり、部下の信頼を勝ち得る事が出来たり、安心して仕事が出来るような空間を作り上げる事が出来るからです。

良い人間関係と信頼により、情報共有から協調性など、コミュニケーション全般に良い影響が出ると言うわけです。

ちなみに、マキャベリは「リーダーは嫌われるのを極力避けるべきだ」とおっしゃっているわけですが、割と現代の職場で、無理に恐れられようと嫌な上司を演じている人、もしくは素のまま嫌な上司が居ると思いますが、それは恐れられているのでは無くて、ただただ嫌われているだけですので、恐れられる事と嫌われる事を履き違い無いようにするのが良いかもしれません。

**２．組織全体の秩序（望ましい状態）を大事にするべき**

君主論が悪い本として叩かれれる原因として、リーダーとして力を保つためには、どんな極悪非道な事をして良いと言うような事が随所に描かれているからでしょう。

と言う事でマキャベリも悪人と言われますが、悪か善かと言う部分は置いておいて、マキャベリは組織、社会、国、全体の秩序を大切にしており、その秩序を脅かす存在は徹底的に潰す事を考えていたのではないでしょうか？

例えば、今、アメリカの大手メディア会社が、とある億万長者に訴えられて、大きな裁判になっているわけですが、これに対してAmazonの社長であるジェフ・ベゾスは「メディア会社が発行したニュースを元に裁判を起こしてしまったら、言論の自由が文化の一つであるアメリカ全体の秩序を乱して、国民に発言する事への恐怖を植え付けてしまう可能性がある」と言いました。

言ってしまえば、この例で、秩序を脅かす存在は億万長者の勘に触るニュースを発行してしまったメディア会社では無くて、訴える事によって社会全体の秩序に影響を及ぼしかねない億万長者の方であるわけです。

もし、マキャベリが現代のアメリカのリーダーであれば、この億万長者の訴えを取り下げさせる事に全力を尽くすのかもしれませんね。

そしてこの、全体の秩序を大事にすると言う思考方法を体現するリーダーは、より安定して、部下が安心して全力で動ける組織を作る事が出来るようになるかもしれません。

例えば、協調性や情報共有、コミュニケーションが企業の文化として大事にされている会社があるとしましょう。多くの社員はこの企業文化に賛同して入社したわけです。そんな中、自分の業績や成果だけを重視し、他の社員との協力や情報共有をないがしろにしている社員が居たとしましょう。全体の秩序に与える影響を考えたら、この社員は即刻、クビにするべきなわけです。それが、その社員に不公平なのか悪なのかと言う事は関係なくて、秩序を乱す人間は徹敵的に排除すると言うような考え方ですね。

最後に、様々な教訓やアイデアが描かれている君主論、人によってどう受け取るかは違うと思いますので、５００年経っても尚、時代を超えて読まれている賛否両論の一冊、読んでみたらいかがでしょうか？